

先日、全国市長会出席のために東京に行った際、終了後に喜寿を迎えた友人に久しぶりにお会いしました。コロナ禍では難しかったマスクなしでの会話ができて、友人は「顔を見ながら話ができてうれしい」と笑顔で話してくれました。孫の卒業式での卒業生あいさつの中で、「大声ではしゃいだり、修学旅行や運動会などの学校行事の実施がなかなかできなかったの、友だちの笑顔を見る機会が減って寂しい思いもある」という言葉を思い出しました。大変な時代に学生だった皆さんは、苦労や悔しいこともたくさんあったと思いますが、人生の大きな糧になったことでしょうか。そして大人になって「あのときは大変だったけど頑張ったよね」とぜひ思い出話に花を咲かせてください。

さて、友人が世界最高齢の総務部員としてギネス世界記録に認定された玉置泰子さんの話をしてくれました。玉置さんは現在93歳ながら、大阪府にある専門商社で現役の総務課長としてフルタイムで勤務しています。エクセルやパワーポイントを使いこなし、笑顔が素晴らしいなどと部下からも慕われているそうです。

「笑顔で楽しく仕事をやること」を玉置さんは心がけているそうで、「100歳まで働くこと」を目標にしているそうです。また、100歳を迎えたらエッセイを書く夢もあるそうで、友人は「玉置さんのように元気な100歳を目指したい」と話してくれました。



玉置さんは「一期一会、人との出会いを大切にすること」を信条としており、また「チャレンジ精神」を大事にしているそうです。業務とは別に会社のクラブ活動に所属していたそうで、70歳まで続けられたスキー部では毎年、若い社員と一緒に北海道のニセコでスキーを楽しみフレッシュされていたそうです。私は「人との出会いを大切に、そしてチャレンジ精神を持つことの大事さ」を改めて気付かされました。



ほんわか農園 青空担当
ほんかわりえ
本川 理恵さん



「ハーブは、リラックス効果があって癒やされるんですよ。そう話すのは、大東地区太平のある畑でハーブを育てる、ほんわか農園青空担当の本川理恵さん。

本川さんは日南市出身。農業を営む旦那さんと結婚し、専業農家で甘藷、洗いごぼうを生産していました。しかしサツマイモ基腐病の影響で思うような生産ができなくなり、旦那さんはトラックドライバー、本川さんは小規模の畑で野菜などを生産する兼業農家となりました。現在は、タマネギやナスなどの野菜とハーブを減農薬で生産しています。昨年の10月からは、甘藷を使ったコロッケやハーブティーを販売するキッチンカーをスタート。「直接お客さんと話したいと思ってスタートしました。『おいしかったよ』とお声をいただくとうれしいし励みになります」と笑顔で話してくれました。

農家の傍ら、昨年の2月からはYouTubeで串間の食や観光地などの魅力を定期的に発信しています。「ある仕事現場で、人々との深いつながりを目の当たりにして感銘を受けたことがあって。そのような串間の皆さんの温かい人間模様を紹介したいのがきっかけで始めました。これから自分のペースで発信していきたい」と本川さん。

「今の自分があるのは、家族や友人、周りの方の支えがあったからこそ。これからも『人と人とのつながり』を大事にしていきたいです」と元気に意気込んでいました。



人とのつながりを大事に



アカウミガメ 保護

ー産卵・誕生シーズン到来ー



昔話の「浦島太郎」に代表されるようにウミガメが登場する民話・民謡はもちろん、ウミガメの肉や卵、甲羅は食用や装飾品として利用されており、私たちにとって身近な生き物です。本市の7つの海浜においても、毎年のようにアカウミガメの上陸と産卵が確認されているため、その姿を見たことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、そんなアカウミガメは、近年の環境変化によって絶滅の危機にひんしています。

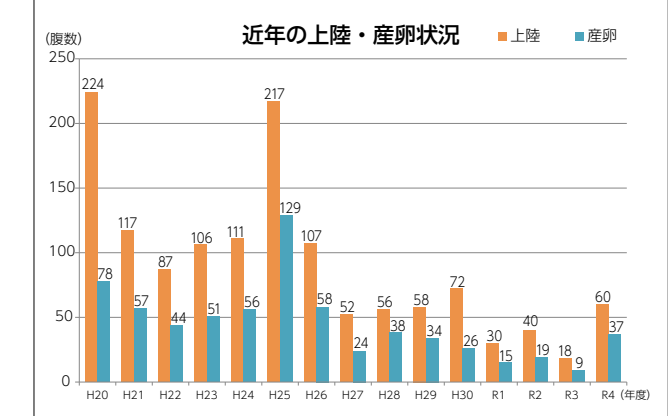


アカウミガメは、大人になると甲羅の長さが80センチほどにもなり、体重は100キロを超える大型動物です。5～8月頃、夜になると砂浜に上陸して1回に120個ほどの卵

を産み、約2カ月で子ガメが誕生します。日本で生まれた子ガメは、黒潮に乗って太平洋を横断し、多くはアメリカの西海岸まで移動します。そこで餌を食べて十分に成長すると、再び太平洋を横断して日本に戻ってきます。

本市においては、平成2年頃からアカウミガメの上陸・産卵数の統計調査を行っており、現在では保護協

力員の協力を得てアカウミガメの保護活動を行っています。上陸・産卵数は、ここ数年、著しい減少傾向にありましたが、昨年度は増加がみられる、というようにその年度によって変動が大きいので、その実態を把握するべく、今後も保護活動と調査を続けていく必要があります。



- 海岸にゴミなどが多くあると、母ガメは産卵を諦めて海に戻ってしまうことがあります。ですので、ゴミはお持ち帰りください。
 - 砂浜に車が乗り入れてわだちができると、子ガメが乗り越えられず、海に帰れない原因となります。海浜への車両(車・バイク・バギー)の乗り入れはお控えください。
 - アカウミガメの産卵やふ化は夜の暗闇の中行われ、照明によって母ガメはその産卵場所を避けてしまったり、子ガメは海の方角が分からなくなり海にたどり着けないまま朝を迎えて捕食されてしまったりなど非常に敏感です。見かけても明かりを当てず、少し離れてそっと見守ってください。
- 貴重なアカウミガメを守るため、ぜひ海岸環境の保全にご協力をお願いいたします。



アカウミガメを見かけたら
問 生涯学習課文化係 ☎55 - 1163